

第1回第5期瀬谷区地域福祉保健計画策定懇談会

2月13日(木)に、第5期瀬谷区地域福祉保健計画(令和8年度からの5か年計画)策定についての話し合いを行うため、第1回策定懇談会を開催しました。

今回は、骨子となる「基本目標」と、その基本目標を実現するための「6つの取組」について、地域の各団体、医療機関、行政等の策定委員(18名)で意見交換を行いましたので、内容の一部をご紹介します。これらのご意見を、第5期計画に反映していきます。



～基本目標(案)について～

基本目標Ⅰ

“おたがいさま”で
支え合うまち

基本目標Ⅱ

健康でいきいきと
暮らせるまち

基本目標Ⅲ

誰もが活躍できる
まち

- ・ 語尾を「まち」にすると、自分もその一員なんだと感じてもらえる。瀬谷区ってどんな所かと問われたら、「こんなまち」と言える。漢字が少なく誰もが分かりやすい。
- ・ 「まち」より「まちづくり」とした方が、より幅広い人に目標を理解してもらえるのではないかと。
- ・ 新しい住宅が増えてきているので、みんなが緩やかにつながっていけると良い。
- ・ どのように若い人を巻き込みながら、“おたがいさま”の意識を浸透させていくかが重要である。
- ・ “おたがいさま”という言葉は、人とのつながりを感じさせる大事な言葉である。
- ・ 3つの基本目標に更に近づいていけるよう、目標とする「まち」のイメージを具体的にしていける必要がある。
- ・ それぞれが、自分のフィールドを超えたインクルーシブな共生社会のことを伝えていけると良い。
- ・ 第1期・第2期とサロン等の地域交流の場が増えていき、今も活動を続けている。その一方で、参加者が年々減少しているところもあるので模索していきたい。

～(基本目標を実現するための)6つの取組(案)について～

取組1:身近な地域での見守り・支え合い・助け合いの仕組みづくり

- ・「顔の見える関係づくり」は発災時に発揮すると思われるが、平時の助け合いも大事である。
- ・ やさしい日本語を使って広報することで、外国にルーツのある人が防災訓練等に参加でき、知り合いになって交流が生まれるのではないかな。

取組4:多様性を尊重した多世代の参加のきっかけづくり

- ・ 「多様性を尊重」とは、自分ではない、自分とは違うマイノリティの人をイメージしていないか。誤解のない言葉にした方が良い。
- ・ 「参加」だと、しなくてはいけない感じになるので、「交流」の方が良いのではないかな。

取組2:一人ひとりに応じた健康づくり

- ・ 自分の健康状態をどれだけ分かっているか。まずは健康への意識を持ってもらいたい。
- ・ 健康に関心を持つ → 健診等を受ける → 自分に合わせた健康づくりを実施

取組5:地域住民や関係機関(団体)等の連携・協働・ネットワークづくり

- ・ なかなか家から出られない人に対して、民生委員等の地域の方が関わってくれているのはありがたい。
- ・ 地域課題を共有することが大事。また、「顔の見える関係」は、関係機関にも必要。

取組3:健やかにこどもが育つ環境づくり

- ・ こどもが育つ場面は、家庭、学校、地域といろいろある。どこかが欠けても、こどもの成長に影響を及ぼしてしまう。そのためには、人とのつながりをどのようにしていくか、注力する必要がある。
- ・ 「環境」より「風土」の方が良いのではないかな。「環境」は整備という考えになるが、「風土」は、まちの雰囲気のイメージで、地域で取り組むことに合っている。

取組6:必要な情報や支援が届く仕組みづくり

- ・ サロンも情報提供の大切な場になっている。サロンや趣味の活動等、みんながどこかに入っている(所属している)ことで安心感につながる。
- ・ 社会福祉施設では、地域貢献・社会貢献をしよう言われているが、地域の方が何に困っているのか分からない。地域のニーズ情報があれば検討しやすい。

全体的なご意見

- ・ 「6つの取組」は、第4期計画の中で推進している活動とも方向性が合致している。

学識経験者からのコメント

- ・ 活動している人だけでなく、地域の中により浸透し、共感の得られる計画になっていくようになると良い。
- ・ こどもや外国にルーツのある人、多様性について、懇談会でも多く話題が出るようになり、その意見を生かしたものが「6つの取組」の文言も入ってきている。



- ・ 瀬谷区地域福祉保健計画(暮らしやすいまちづくりの計画)
- ・ 過去の懇談会の報告書(バックナンバー)